西東京市市民協働推進センター

平成29年度第3回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成29年6月20日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第1、2会議室
■出席委員：池田委員、海老澤委員、熊谷委員、古林委員、紺野委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、田中委員＜以上8名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、鈴木副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋地域福祉推進課長補佐兼係長、山田主任

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、5月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：気ままサロンの問い合わせが多いのは興味深い。気ままサロンは男女問わないのか。

事務局：男女は問わない。

委員長：高齢者の閉じこもり防止の活動がしたいとの相談は西東京市社会福祉協議会（以下、社協）につながるのではないか。

事務局：地域サポート「りんく」の一環でもある。

委　員：りんくは団体か。

事務局：生活支援整備体制の事業だ。

2. 6月以降の事業について

事務局より、6月以降の実施事業について説明があった。

委　員：おとぱ＆ミディサロンは3回目とあるが今年度のことか。

事務局：今年度3回目で毎月1回ゆめこらぼのサロンコーナーで開催している。地域デビューを考えている方に参加してもらい、情報交換などを行っている。

委　員：毎回参加する人は違うのか。

事務局：参加者は昨年度あたりから固定してきている。

委　員：NPO市民フェスティバル実行委員会（以下、実行委員会）の開催時間だが、平日の午後4時から6時だと、参加できる方が限定されるのではないか。その時間帯にした理由はあるのか。

事務局：以前は午後7時から開催していたこともあったが、現在は閉館時間が午後7時なのでこの時間になった。実行委員会のメンバーには2種類あり団体枠で参加している方とおとぱ関係者から参加している方がいる。午後7時からやっていた時でも団体の参加者が少なくこの時間帯になった。

委　員：平日の夕方だと高齢者が多く、次につながらないのではないかと懸念される。

委員長：実行委員の応募の状況はどうか。

事務局：20団体ほどに声掛けし、6団体から各1名ずつとおとぱ関係者から10名程度の実行委員が決定している。

委　員：6月10日のまちづくり円卓会議（以下、円卓会議）に参加してきた。公民館が協力的である。参観者の中には地域の活動に興味があり市報を見て参加した方がいたが、なかなか情報

がないと話していたので周知の仕方もいろいろあってよいのではないかと思った。円卓会議のメンバーだけではなく参観者もグループで話し合いをし、残り２回で具体的なやり取りのキャッチボールができるなど、良い方向に発展していけばと感じた。避難所運営ゲーム（HUG）についての質問だが、教員が対象ということで、教員が学校でやるための勉強として開催したのか。

事務局：実際の運営協議会のマニュアルに沿った形で行うことで、マニュアルの見直しと経験をすることにより実地に活かしたいとの主旨である。

委　員：西東京市は避難所では教員のかかわりが出てくる計画とか役割があるのか。

事務局：避難所運営自体は協議会があり住民主体だが、施設の受け入れ側として先生も関わりが出てくるので勉強している。

委　員：学校が避難所になる以上教員も興味をもってもらえるのは良いことだし、学校で開催することにより子どもたちに関わりが広がれば良いと思う。教員を対象にやることがあまり聞いたことがなかったので興味があった。

事務局：そういう意味では何年か前に教育委員会から要請があり校長先生の研修ならびに防災担当の先生を対象に避難所運営ゲームの研修を行い、市内の小中学校の半数以上で開催してきた。

委　員：柳沢中学校で人間 HUG を行う。生徒がカードとなって行う予定だ。

事務局：学校により意識の差はある。柳沢中学校は先生も熱心である。

委　員：教員がここまで関わるのは珍しく、とても良いことだと思う。

3.傍聴について

事務局：傍聴要領の改正についての報告となるが、市との調整会議で話合った結果、傍聴要領そのものには手を加えないということとなった。運営委員会としては個人情報保護・営業機密などの理由での傍聴人の退場の件は委員長が別に定めるものを別記として作ることでお願いしたい。

委員長：報告事項として傍聴についての要領の説明があったが、質問はあるか。

委　員：趣旨が活かされる別記ということか。

事務局：そうだ。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：質問、意見が特にないのであれば、前回の会議録は確定稿とする。

2. 会議録について

委員長：会議録を記名にするか無記名にするか個別での意見を聞きたい。

委　員：市もこの形となっており、誰がどの発言をしたかということを求める会議ではないので、現行でよい。

副委員長：会の流れがわかることが大切であり、会議録の中で誰が何を言ったかより、何を目指しているかを話し合う場なので現行の形でよい。

事務局：あと２名の意見がまだである。

委　員：全員の意見は聞いた方がよいので個別で聞くことは可能か。

委員長：事務局で2名の意見を聞いてもらい全員の意見が揃ったところで決めたい。
事務局：次回までに意見を聞いて報告する。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重要事業の企画）について

事務局より、NPOパワーアップ講座「ファンドレイジングについて学ぶ」（企画案）について説明があった。

委　員：NPO法人・市民活動団体実態調査で団体の資金規模、寄附や会員の会費収入の割合などは聞いているか。
事務局：聞いている。収益では億単位の団体と50万以下の団体と二極化している。
委　員：徳永洋子氏はとても良いお話をするが西東京市の現状を伝え、参加される団体の平均的な姿をイメージして話してもらえればよい講座となるのではないかと思う。
事務局：事前に伝えていく。
委員長：団体規模により話の内容がかわるのか。
委　員：資金規模の小さなところと大きなところでは資金の集め方や目標の置き方、手段に違いがあると思う。小さなところでも始めやすい方法など話してもらうのも良いのではないか。
委員長：具体的な内容になるのか。
事務局：資金の集め方だけではなく、基本的に考えなくてはならない自分たちの活動をどう伝えていくかということも話してもらう。
委　員：団体の状況は違いがあるので、時間的問題もあるが、状況の近い団体同士の話合いが出来れば情報交換にもつながるのではないか。
事務局：締め切りを少し早めにし、参加する団体の状況を伝えていくことを予定している。
委　員：対象が資金調達に関心あるNPO・市民活動団体とあるが、資金調達にばかり目が行ってしまう。資金を集めるためには団体として必要なものをきちんと理解してもらえるとよい。
委　員：どれくらい資金調達に関心のあるNPO・活動団体が市内にあるのか。資料をみると大きく資金を調達するイメージだ。
副委員長：設立時は賛助会員などがいて資金も集まるが、継続して資金を集めるのは大変である。参加した人たちに収益の部分で会費収入の割合を分析した資料を配布し話してもらうのが、情報提供につながるのではないか。大きく困っている所は来ないのではないか。
委　員：具体的に資金調達の相談を登録団体からされたことはあるのか。
事務局：ない。しかし、調査結果で資金調達の課題は常に上位にあがっている。西東京市だけの状況ではないと思う。標準的な方法で資金を集める講座を考えている。
委　員：資金の相談をゆめこらぼにできるのかどうかも知られていない。資金調達に関する相談もできることを発信する機会でもあり、ゆめこらぼとしてのメッセージ性はある。
事務局：ゆめこらぼにとっても勉強する機会でもある。
委　員：参加することにより団体の実態を客観的に知るきっかけになる。
委　員：フアンドレイジングは知られている言葉ではないので、タイトルに入っていてくるとわかりづらいのではないか。
委員長：逆に資金規模の大きい団体は関心を持つのではないか。
委　員：ゆめこらぼの登録団体にみあったワードを使った方が関心を呼ぶのではないか。

事務局：いずれの調査でも会員の獲得の苦労に続く課題として資金調達が上がってくる。金額の大小はあるが資金調達を正面からとらえて講座をしたことがなかったので、今回企画した。

事務局：登録団体がNPOより市民団体が多く、ファンドレイジングは知られていない言葉であったりするが、資金調達を前面に出しサブタイトルで工夫する。NPO法人の登録が少ないので、目を向けてもらうための講座でもある。

委　員：会場の定員は何人か。

事務局：約100人だ。

委　員：資金調達がどれぐらいなのか具体的な目安があれば分かりやすい。西東京市の団体が自分たちの資金としてどれくらい欲しいと思っているのか。

事務局：具体的な金額はわからない。一般的に資金調達を課題としているが、今の収入で満足しているのか拡大しようとしているのかはわからない。資金調達には単発的なものもあれば継続的なものもありどちらでも構わない。

委　員：単発の資金調達でも継続的な資金調達どちらでも構わないとなれば参加しやすい。

委員長：ファンドレイジングは事業資金のイメージがある。事業資金は事業の中で使い切るが、団体運営管理費に対する収入を取るのは難しい。運営資金にたいして資金調達する方法があれば自分は参加する。

委　員：地元の協賛金をいただくが、資料の中に協賛金という言葉がない。ファンドレイジングは新しい言葉だが、お金を集めるイメージがあるので、協賛金とイメージがつながると関心が高まるのではないか。

副委員長：助成金など大きなものではなくても、企業とのコラボなどで活動資金の調達方法なり情報の取り方を教えてもらえると良い。チラシの書き方で関心が集まるのではないか。説明書きに工夫があれば興味を引くのではないか。

委員長：小規模の施設に対するアピールができる方法で内容が伝えることが出来ればよい。

事務局：意見を採り入れチラシの工夫をする。

2.NPOを支援する事業・企画について（フリーディスカッション）

事務局よりNPOを支援する事業・企画の現状と進め方について（案）について説明があった。

委　員：事業の中でNPO法人・市民活動団体実態調査は毎年やっているのか。

事務局：3年に一度だ。

委　員：土地勘がないのでわからないのだが、田無地域と保谷地域で登録団体の数に差があるのには理由があるのか。

事務局：西東京市は合併してできたが、ゆめこらぼは田無地域にある。保谷地域（特に西武池袋線北側）においてゆめこらぼの設備を利用するメリットはない。ソフト事業の中でメリットを感じてもらうしかない。ゆめこらぼが何をやっているかわからないという声もあり、講座なども田無地域で行うことが多いこともありその辺りを払拭していきたい。

委　員：保谷地域にもゆめこらぼに変わるような施設はあるのか。

副委員長：保谷庁舎のそばに社協があるので、そこから紹介してもらえる。

委員長：社協の事務所の中にゆめこらぼスペースはあるのか。

事務局：特にない。ゆめこらぼの担当職員がいる。

委　員：出前相談に関してだが、年間で回数が決まっているのか。
事務局：年間 2～3 回だ。
委員長：助成金情報以外の情報収集は具体的にどのような手段でしているのか。
事務局：日本 NPO センター、東京ボランテイア・市民活動センター、近隣 7 市などから情報を収集している。収集はある程度していたが発信面が弱かったように感じている。どういう情報にニーズがあるのか分析は必要かと思う。
委　員：どういう返答の仕方をするかだ。一度振り返ってアイデアをそれぞれの事業ごとに出し合うのか、来年度の進め方の案を議論した方が良いかだ。
委　員：来年度どういうキャッチフレーズなり、テーマに重点を置くか見えた方が書きやすいのではないか。来年度のことがまだ決まっていないのなら、今年度の展開の説明があればイメージが作りやすいのではないか。
事務局：団体が 160 まで増えたが、大半が任意団体であるため、任意団体を支援することを充実させる必要があると思う。また、未登録の NPO 法人に対しては認知度が低くアプローチは必要だと考える。
委　員：それは今年の重点か来年か。
事務局：一部は今年度も取り組むが本格的には来年度になる。
委　員：未登録団体はどれくらいあるのか。
事務局：NPO 法人では約 60 団体、趣味活動をする任意団体を含めれば 500～600 あるので、今登録いただいている 140 くらいの任意団体に対してどうするかだと思う。
委　員：その辺りのイメージが共有できれば、アプローチのイメージはしやすくなる。
委員長：具体的に書き方はあるか。
事務局：5 つの事業（①広報・ＰＲ事業、②情報収集・提供事業、③相談事業、④人材、団体育成・研修事業、⑤施設の提供及びその他事業）の中で事業間の優先順位づけと具体的な事業の企画の提案があればありがたい。最終的には来年度の事業計画に反映できればと考えている。
委員長：提出はいつが希望か。
事務局：7 月上旬の提出をお願いしたい。
委員長：次回の運営委員会で使うのか。
事務局：反映したものを利用したいので 7 月 7 日までに提出をお願いする。
委　員：来年度の予算で事業費の変動はあるのか。
事務局：それはない。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：7 月 18 日（火）19 時～20 時
会場：イングビル 3 階　第 1,2 会議室